

令和7年度 第1回 福岡市社会的養護自立支援協議会 議事概要

(1)委員紹介・資料確認

各委員から自己紹介

(2)社会的養護経験者等への自立支援について

(事務局より説明)

(3)実態把握調査の実施(案)概要について

(事務局より説明)

委 員:家庭に戻った子どもは対象に含まないのか。

事務局:基本的には含まないと考えている。

委 員:対象の整理が必要。国の実態調査の際、児童相談所でリストを作成し、実施した。対象者を明確に特定した方がアプローチしやすい。アプローチ方法は施設等が対象者へ依頼でよい。

事務局:お見込みのとおり。対象者に家庭に戻った子どもを含むか意見を伺いたい。

委 員:家庭に帰った後、どうなっているかは分からない。含めてよいのではない。

委 員:家庭に戻った子どもも一定数いると思う。含めてよいのではない。

委 員:回答者への報酬があると回答率が上がるのではない。

事務局:回答率を上げるためにデジタルギフトの配布を検討している。

国の調査では回答率が約14%程度。福岡市の調査では今後の施策を検討するためにも、できる限り回答率を上げたい。

委 員:令和元年以前の退所者にも協力してもらってもよい。

事務局:令和元年～6年度の対象者にはリストを確認して施設等から依頼してもらいたい

が、それ以前の退所者は施設から個別に依頼可能であれば、お願いしたい。

委員：入所者調査について、15 歳以上であれば、入所して間もないなど関係なく回答してもらってよいか。

事務局：お願いしたい。

委員：児童相談所で退所者調査のリストを準備可能か。

委員：可能。

事務局：個人情報となるので、調査に必要な情報のみをお渡ししたい。また、リストの取り扱いに注意をお願いする。

委員：(委員へ)別の社会調査で回答率がよかったものがあったと思うが、どのように調査したのかご存知か。

委員：その調査に関わっておらず分からない。兵庫県の社会調査では回答率が比較的高かった。インセンティブがあった方が効果的である。

事務局：入所者調査について、数名の子どもを対象に、こども家庭課職員からヒアリングしたいと考えている。

委員：施設でヒアリングの対象者を選ぶと恣意的になってしまうおそれがある。例えば、夏頃に児童相談所で実施する権利に関する児童面接のときに、ワーカーから子どもへ協力依頼するなど、児童相談所にも協力してほしい。

委員：権利面接に限らず、ワーカーが子どもに会いに行くタイミングがある。施設や 里親に相談しながら協力したい。

事務局：施設等調査の対象に親族里親も含めた方がよいか。考えを伺いたい。

委員：親族里親も自立支援について悩みなどあると思うので含めた方がよい。

(4)調査項目について

(事務局より説明)

事務局：アンケート項目は国や他都市で実施されたものを参考に案を作成している。

委員：調査項目は、どのくらいのボリュームになるのか。回答の途中で保存できるのか。ま

た、初めに重要な項目を持ってくるなど、回答方法を工夫したほうがよい。

事務局：本調査の実施については、業者へ委託する予定。ご指摘の点について参考にしたい。優先すべき調査項目を尋ねたい。

委員：対象者への依頼文はあるか。依頼文に調査の趣旨や回答したくない質問には無理に答える必要がないことを記載する必要がある。

事務局：依頼文は、意見を踏まえて作成したい。

事務局：(委員へ)他の自治体の社会調査に携わられている経験から意見を伺いたい。

委員：調査項目は文面が固く、ボリュームが多いと感じる。私自身、アンケートの冒頭部分で回答するのに心が折れてしまいそうになった。調査に回答する意義やインセンティブが大事である。他の社会調査の当事者ワーキングチームで調査項目の確認をした際、不要なものが多いと感じた。調査項目の精査が必要。

事務局：(委員へ)いわゆる警固キッズ等にインタビュー調査をされているが、若者を対象として調査する際の注意点があれば教えてほしい。

委員：調査のインセンティブの話があったが、回答者へお菓子を渡す工夫をしている。ボリュームについては多くてもA4両面程度がよい。単純集計だけでなく、クロス集計を見据えて、順序の尺度を盛り込むなどすると数量化できるのでよい。

事務局：集計も見据えて調査項目を検討したい。

委員：入所者調査について、「施設職員や里親、児童相談所の担当者は信頼できるか」の設問がある。里親と児童相談所の職員では立場が異なるので、分けた方がよい。また、全体的に漢字が多いのと、文言が難しいので子どもが理解できるか心配である。

事務局：その設問は信頼できる大人がいるかを確認したいものである。表現方法を検討する。調査項目については、なるべく分かりやすい表現に変更したい。

委員：入所者調査について、回答に障がい認定を受けている、あるいは特別支援学校を選択するところがあるが、回答しづらいのではないか。また、調査項目の内容について普段から子どもに関わる人の意見も聞いて表現方法を検討した方がよい。退所者調査は、多岐に渡っていて回答しづらい。まずは「現在の生活で困ったことがあるかないか」から質問した方がより身近なことで回答しやすいし、そのあとの項目にも回答しやすくなる。1度の調査で全てのことを把握するのは難しい。

事務局：調査項目に配慮が足りない点があった。再度検討したい。

委員：若者総合相談センターへ相談に来る方は、1つの困りごとでやってくる。面接することで、隠れていた困りごとが分かるので、多数の選択肢の中から選ぶのは難しい。退所者調査の住まいについて、1つ選ぶようになっているが、住まいを転々としている方もいるので、1つを選べないかもしれない。

事務局：調査項目について、再度検討したい。

委員：困りごとは複合的になっている場合が多い。設問は多くなるが主観的に回答できる項目の方が回答しやすい。

事務局：焦点を絞って調査項目を削るとなると、統計はとれなくなるが、主観的に回答可能な内容を掘り下げる設問にすることを検討したい。

委員：調査項目を絞った方がよい。その一方で、国や他の自治体の調査結果と比較するために、それに合わせた調査をした方がよいとも思うが、事務局はどう考えるか。

事務局：他自治体との比較ができることはメリットでもあるが、各委員の意見を踏まえて、本調査はどのような支援が必要なのか、回答者側に立って実施したい。

委員：国や他の自治体の調査における回答率は、ほぼ同じパーセンテージの結果が出ている。もし福岡市でその調査項目により実施したとしても似たような結果が出ると思う。それより、もう一步踏み込んで対象者の具体的な困りごとや必要な支援を調査した方がよい。

事務局：委員の意見を踏まえて、再度調査項目の案を検討して、共有したい。

委員：調査項目の案ができた段階で現場の施設職員等に確認してもらうこともできる。

委員：退所者調査について、医療費の支払いに医療券を入れると生活保護受給者と分かるので調査の参考になる。入所者調査について「どんな学校に通っているか」など子どもが回答しづらいものは、施設や里親で事前に回答する工夫をしてもよいのではないか。

事務局：入所者調査について、施設や里親に回答してもらうところと子どもに回答してもらうところに分けた場合、両者の回答を紐づけた方がよいか。

委員：もし紐づけるなら、それぞれの回答をナンバリングすることになる。

事務局：子どもを特定するつもりはない。紐づけが必要かも含め検討したい。

委員：施設等調査について、ファミリーホームのように、子どもが数人いる場合、それぞれ

の子どもへの対応が異なるので回答しづらいのではないか。

事務局：施設等が個人に対してではなく、社会的養護経験者に対してどのような支援を行っているか確認したいため実施する。自由記述になっているので、いろいろなことを含めて回答してもらって構わない。

委員：調査への回答方法は電子だけでなく、紙媒体も選択できるようにした方がよい。

事務局：紙媒体の場合、集計作業に影響するが可能かどうかを含め検討する。

委員：施設等調査について、「自立支援について取り組んでいること」の設問がある。その選択肢を見ると、施設で多かれ少なかれ取り組んでいて、全て選択することにもなりうるので、特に取り組んでいること、例えば上位5つを選ぶなどすれば、各施設の特色も分かるのでよい。